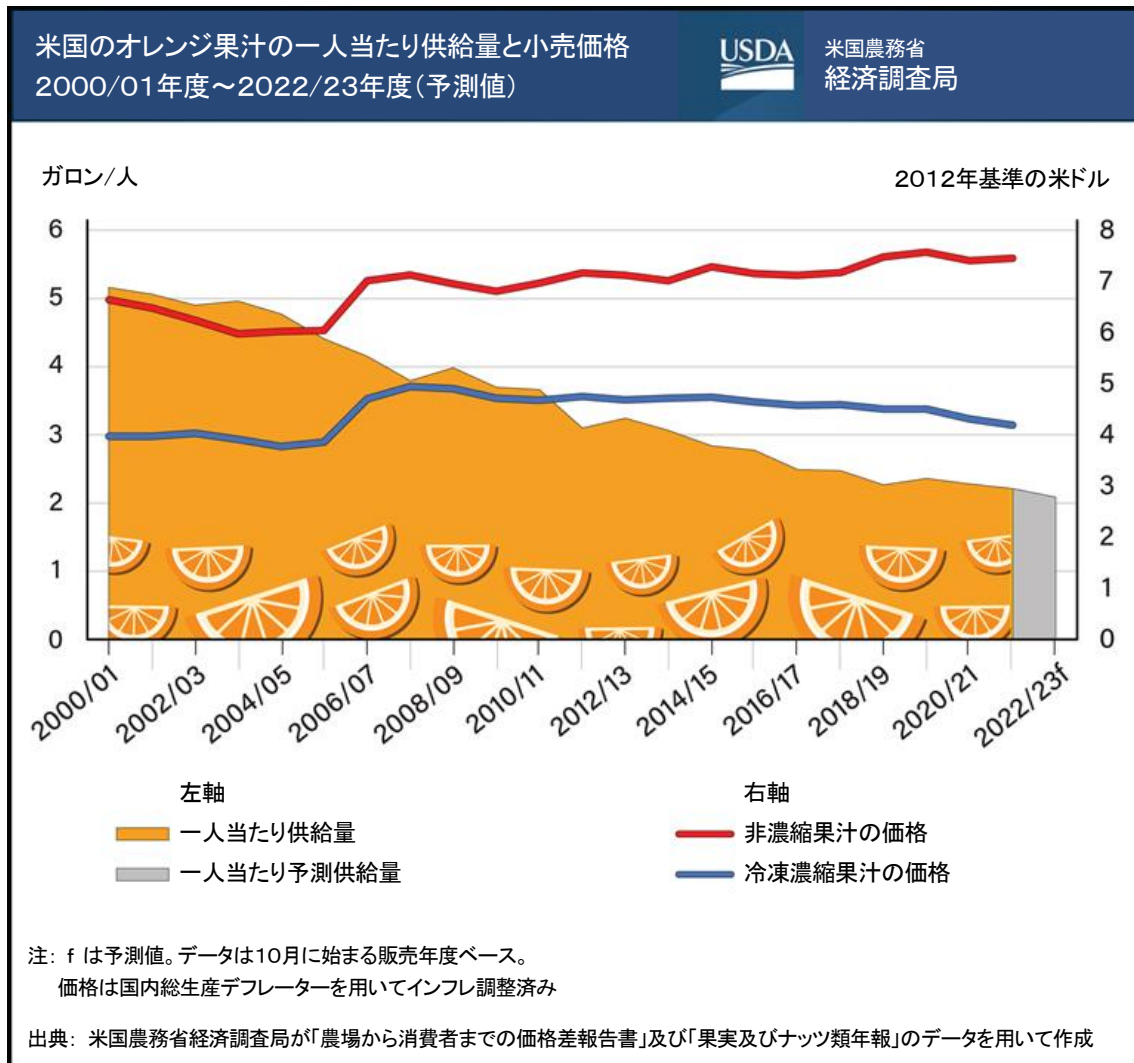


## 米国 インフレ調整後のオレンジ果汁価格は20年間で12%上昇

米国農務省経済調査局 2023年10月24日



オレンジジュースは、かつては米国の多くの家庭で食卓の定番であったが、過去20年間で消費量が次第に減少した。消費者需要の減少がその一因となっている一方で、国内のオレンジ生産量の減少も消費量の近似的指標である一人当たり供給量に悪い影響を及ぼしている。ブラジルとメキシコからのオレンジ果汁輸入により、供給量の減少はある程度緩和されたが、オレンジ果汁の一人当たり年間供給量は、2000/01年度の約5ガロンから、2022/23年度の予測値では2ガロンに低下した。(1ガロン=約3.8リットル)

米国の加工用/果汁市場向けオレンジの大部分は、フロリダ州で収穫される。近年、フロリダ州の柑橘類は病害と異常気象に見舞われ、オレンジの収穫量が少なくなっている。供給量の減少は、オレンジ果汁の価格が全般的に上昇する一因となっている。しかし、インフレ調整後の価格で見ると、2000/01年度から2021/22年度までの間に、冷凍濃縮オレンジ果汁と非濃縮オレンジ果汁(主要2品目)の価格は比較的緩やかなペースで上昇した。冷凍濃縮オレンジ果汁の価格は20年間で5%上昇し、非濃縮オレンジ果汁は同期間に12%上昇した。実質価格のこの小幅な上昇は需要減少の影響を浮き彫りにしており、供給量の減少に関連する価格要因は幾分和らげられている。

このチャートは、農務省経済調査局(ERS)の「果実及びナッツ類年報」及び「農場から消費者までの価格差報告書」並びに同局が2023年9月に公表した「果実及びナッツ類の見通し」報告書に基づいている。